

狂言らいぶ

狂言は、室町時代の日常語による会話劇。
その室町口語は現代日本語の基礎と言われています。
だから時代を超えてわかる！笑える！



プロフィール

今、私たちが演じているこの舞台を
600年前の日本人が観ていたと
想像するだけでワクワクします。
このワクワクドキドキ感を一人でも
多くの方々に感じて頂けたらと思います。

和泉元彌(和泉流二十世宗家)



3歳で、「うしはら靱猿」の小猿役で初舞台。その後
9歳で狂言最高の格式を持つ「さんばせう三番叟」を演じ
るなど、大曲・秘曲・稀曲を異例の若さで次々に
演じた狂言界の若きホープ。

和泉淳子(日本初女性狂言師)



3歳で初舞台。平成元年、国立能楽堂におい
て「史上初女性狂言師誕生記念公演」を行い、
狂言界、初の女性狂言師として注目を集める。
以後、テレビキャスターやCMなどでも活躍し、
女性狂言師協会を設立する。

また、長女和泉慶子も「靱猿」の小猿役で初
舞台を踏み、史上初の母親狂言師として、子
どもたちへの狂言教育にも精力的に取り組ん
でいる。

十世・三宅藤九郎



「うしはら靱猿」の小猿役で初舞台。その後、先代
9世三宅藤九郎の指名により、10世三宅藤九郎
の名跡を継承する。また、和泉淳子とともに女
性狂言師としての活躍が認められ文部大臣よ
り感謝状を授かる。

また、ロンドン・グロブ座において「狂言と